

中間とりまとめについて（案）

中間取りまとめについて（案）

1. 中間とりまとめの方針について

中間とりまとめでは、第三回において整理をしたとおり、主に「短期的な課題」である「初期仕様に盛り込むことが予定できる項目」について取りまとめる。「中長期的な課題」として整理した「データベースに盛り込むとしても、初期仕様に間に合わせることは難しい項目」については、各構成員から提案いただいた内容のうち、初期仕様に盛り込むことが予定できない項目を掲載し、これらの項目の収集については今後の課題とする。

2. 中間取りまとめのフォーマットについて

次年度の開発に用いる観点から、データベースのインターフェース仕様に近い形式でとりまとめる。

テーブル名	〇〇〇〇（例：栄養に関する介入情報）		
項目名称	属性	必須	備考
〇〇〇〇 （収集するデータの項目を掲載）	〇〇〇〇 （文字列や数値等の収集するデータの属性を掲載）	〇〇〇〇 （必須／任意の別を掲載）	〇〇〇〇 （より正確に入力するために必要な情報について掲載）

3. 項目を選定する基準について

各構成員から提案いただいた内容等について、第二回において整理をした通り、研究利用へのニーズの高さのみならず、データの利用可能性を十分に考慮する観点から、介護情報システムのベンダーにヒアリングを行い、現時点での収集可能性がある程度担保される項目を選定する。

中間取りまとめフォーマットへの落とし込みの例

第2回科学的裏付けに基づく介護に係る検討会
資料2 利光構成員提出資料(抄)

とりまとめフォーマット(例: 栄養に関する介入情報)

標題	記録内容
食事の提供(経口栄養補助製品による栄養調整の提供を含む)	提供する食事内容や形態、栄養量について記録する。不足が推定される栄養(素)の内容と、栄養調整について記録する。
食事の観察(ミールラウンド)	ミールラウンドによる食事の徴候・症状について11項目のアセスメント(頻度・強度)(食事の失認、傾眠、興奮・大声・暴言・暴力、徘徊・多動、妄想、早食い・詰め込み・丸のみ、拒食、偏食、失行(手づかみ食べ)、異食、盗食)を行う。
配食サービス	配食サービスの利用状況等、体重、食事の状況、主観的健康観について記録する。
食支援(食介助等)	食介助のレベルと内容。介助することによる食事摂取量の増加や食に対する意欲等、効果について記録する。
食事(栄養)相談(訪問栄養指導を含む)	形態調整や調理法、配食サービスの活用と工夫等についての説明内容とその効果について記録する。

利用者の状態把握と
考えられるため、
状態のテーブルで取得

項目名称	属性	必須	備考	研究利用の重要性	データの利用可能性
食形態	文字列		常食、刻み、ミキサー、経管栄養、等		
摂取栄養量_カロリー	数値		単位 ; Kcal		
摂取栄養量_炭水化物	数値		単位 ; g		
摂取栄養量_脂質	数値		単位 ; g		
摂取栄養量_蛋白質	数値		単位 ; g		
不足栄養量_カロリー	数値		単位 ; Kcal		
不足栄養量_炭水化物	数値		単位 ; g		
不足栄養量_脂質	数値		単位 ; g		
不足栄養量_蛋白質	数値		単位 ; g		
栄養調整実施有無	数値		0 なし, 1 あり		
栄養調整実施内容	文字列				
配食サービスの提供	数値		0 なし, 1 あり		
食介助	数値		※コード化が不可能な場合は文字列で取得		
食事相談の実施有無	数値		0 なし, 1 あり		
食事相談の実施内容	文字列				

※まず、委員提出資料等を上記の通り中間取りまとめフォーマットへ落とし込む。更に、バンダーヒアリングの結果も踏まえ、データの利用可能性を十分に考慮し項目を選定する